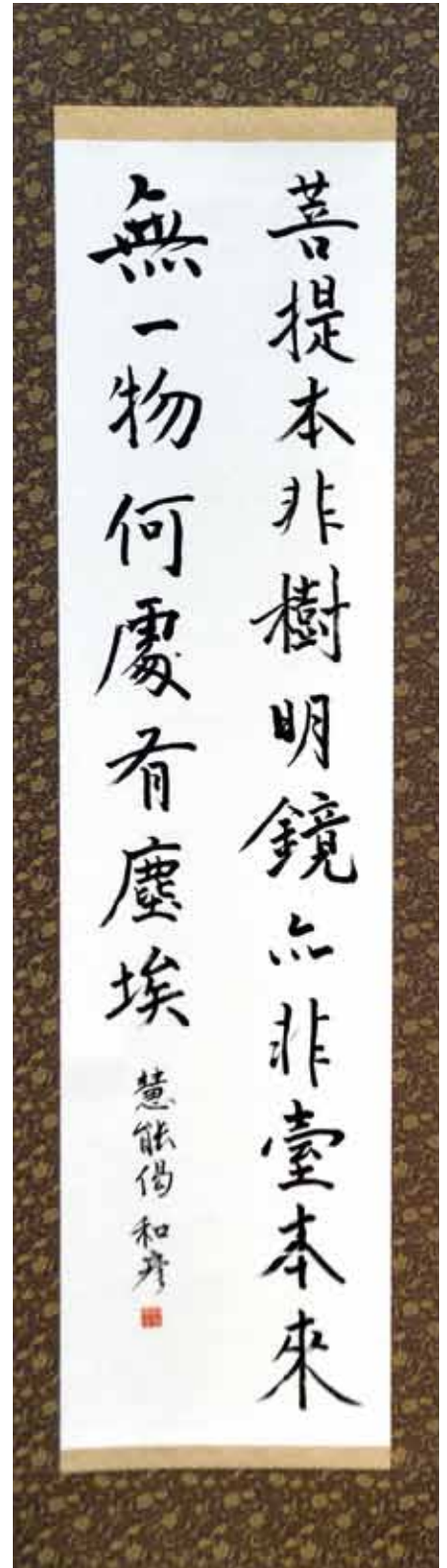


竹村 省一

腰塚 和彦



繚 百
亂 花



菩提本樹に非ず 明鏡亦台に非ず 本来無一物 何れの処にか塵埃有らん



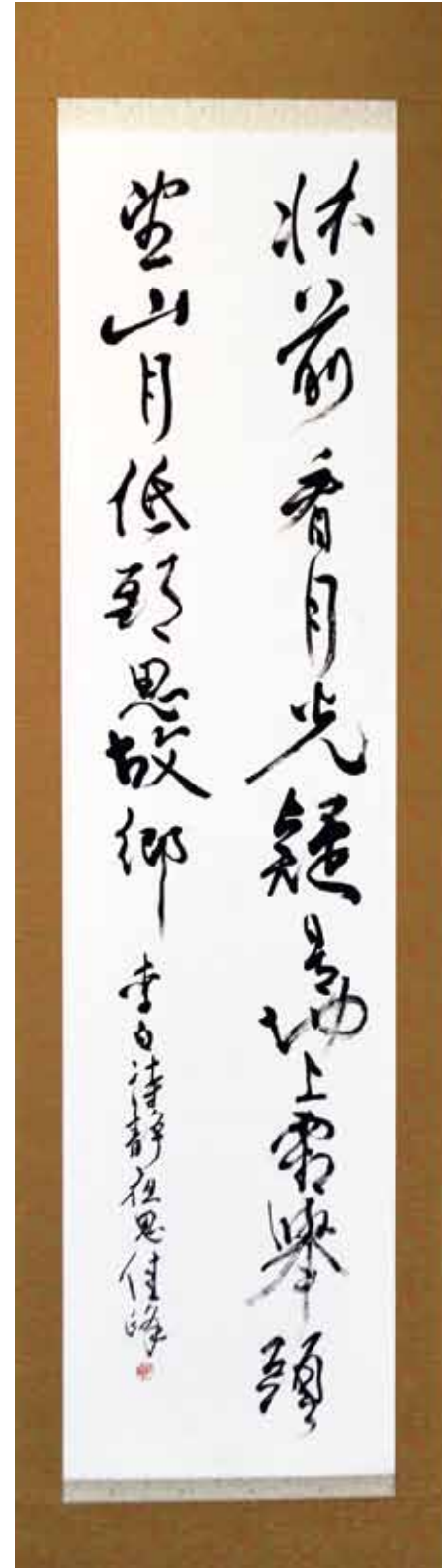
逝く者は斯くの如きか
 夫れ昼夜を舍かず



晴川歴歴たり漢陽樹 芳草萋萋たり鸚鵡洲
 日暮郷関何れの処か是れなる 煙波江上人をして愁えしむ



野の鳥よ
古りし廂に
うたひては
父笑ましぬる
朝もあるべし



牀前に月光を見る 是れ地上の霜かと疑う
頭を擧げ山月を望む 頭を低くして故郷を思う

高月 照巒



余生老いと欲す海南の村 帝巫陽をして我が魂を招かしむ
杳々として天低れ鸚の没する処 青山一髪是れ中原



永き日の
にはとり
柵を越えにけり

内藤 隆雅

内藤 紀子



阿字
本不生

大日経具縁品

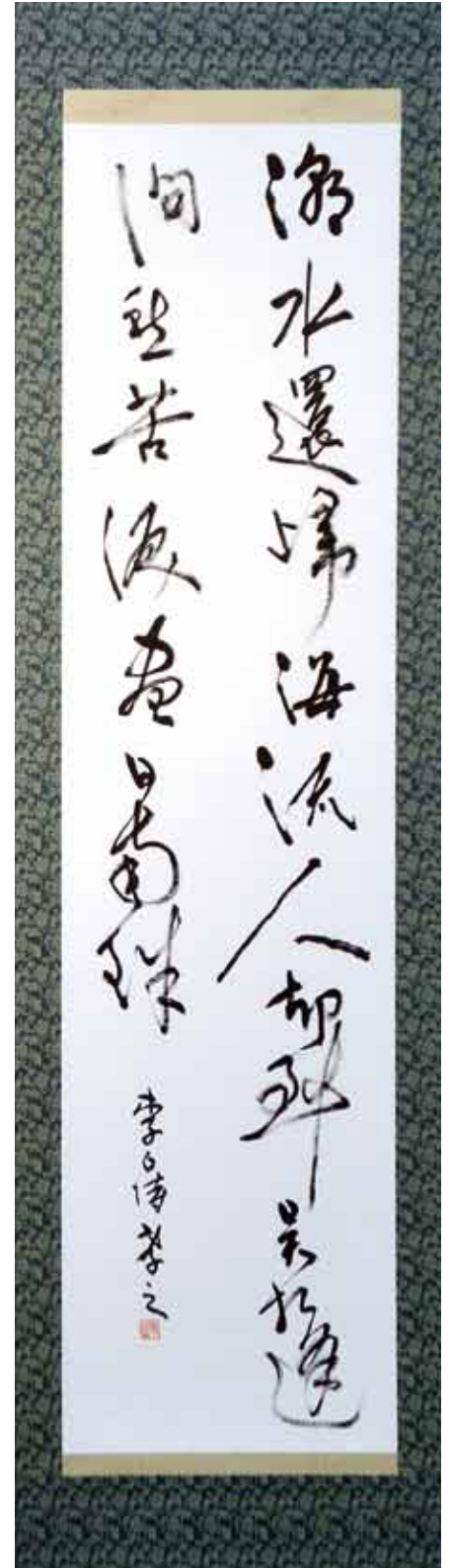


君を懐^{おも}うて秋夜に属す 散歩しつつ涼天に詠ず
 山空うして松子落つ 幽人^{まこと}応に未だ眠らざるべし



恬淡てんだんにして
 遐齡かれいを養う

本年四月一日享年八十五歳で
 他界されました。
 ご冥福を祈ります。



潮水 環りて海に帰り 流人 却つて呉に到る
 相逢うて愁苦を問えば 涙は尽く 日南の珠と



俊風やきもの × 碧 嵩 書



心 月 輪



哉 樂



草 花
情 意

俊風やきものあそび





小品書展を終えて

一度はやってみたいと声が上がって一年ほど前から考えていました。書を楽しんでいるだけだから果たして出来るか正直心配でした。楽あれば苦ありでさぞ苦しんだことでしょう。

書は作者と観者の心の響き合いであって、自分を深く見つめていると他者と地下水で合縁すると思っています。

この度、同窓の誼みで小澤俊風さんにやきものを出品して頂き、本当に助かりました。

深甚の感謝を申し上げます。

加えてこの図録の写真撮影にもご苦勞かけました。

会期／平成二十六年十一月二十一日～二十五日

会場／鶴見区民文化センター サルビアホールギャラリー

書塾 澹 社 島津 碧崙

230-0071

横浜市鶴見区駒岡四の三十の二十二の二〇四

TEL／FAX 045(571)1352

<http://www.geocities.jp/shimazuheligan>